

2018年度(平成30年度) 関西創価小学校 学校評価

1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、平和主義、文化主義、人間主義のグローバルリーダーに

4. スクールポリシー

〔Ⅰ〕明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

〔Ⅱ〕未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校(可能性の育成)
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校 (心の育成)
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校 (世界市民の育成)

5. 中期的目標

(1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ・ 児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ・ 「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力(「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」)を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ・ さらに、学習指導要領改訂の基本方針で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育の充実

- ・ 価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・ また、いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にする児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

(3) 「世界市民」を育成するための教育課程の編成

- ・ 学習指導要領が改訂され、2020年の完全実施へ向けて準備が進められている。
「世界市民」育成のために、1. 「世界の翼」となる英語教育の充実、2. 「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む、の2点を柱とした、新しい教育課程の編成や時程表の作成を行う。
- ・ 具体的には、英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業時数の増加を行う。また、創価タイム(総合的な学習)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

(4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ・ これからの時代は、高度情報化社会に主体的に対応できる様々な力を育成することが重要である。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、高度情報化社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ・ また、急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

(5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ・ 遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールへの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールへの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ・ 児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

(6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ・ 創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ・ 授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

(7) 入試広報、児童募集の充実

- ・ 少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像となる動画を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ・ 学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。
- ・ 募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願(WEB出願)を活用していく。

6. 本年度の取組内容及び自己評価

〔1〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実【**確かな学力の育成**】

今年度の重点目標	具体的取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業、公開授業の実施 授業アンケート実施と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員による研究授業や公開授業を部会テーマ、個人テーマに基づいて計画的に行う 授業アンケートの形式や内容を見直し、授業力向上のための保護者・児童アンケートを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいて研究授業・授業研究会を実施、全教員が公開する授業を行っている 新しい授業アンケートにおいて児童、保護者の8割以上が授業への肯定的評価を示している 	<ul style="list-style-type: none"> 教員全員が、研究授業・公開授業を行い、事前の研究会や事後の反省会で授業力の向上に努めた。公開授業が2学期後半に集中するなど、実施時期について調整する必要がある 児童の授業アンケートにおいて、9割の児童が授業への肯定的評価を示した。授業公開の保護者アンケートについては、Google Formを使用して集計した結果、5項目中4項目が9割以上の値を示した
<p>(2) 家庭学習・読書の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化を図る 万学の基礎となる読書の習慣を定着させる 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を保護者と共有し、WEBの学習教材を有効に活用するなど家庭での学習習慣を身につけさせる チャレンジ図書(学年別課題図書)の読了ノーベルトレイン(車中読書)、スキマ読書、ワンブック運動などを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」に示された学年の学習時間を学年の7割の児童が達成している 9割以上の児童が、チャレンジ図書(学年別課題図書)を読了している 	<ul style="list-style-type: none"> 平均して7割以上の児童が目標の学習時間を達成した。保護者アンケートでは、77%という値を示した 三大行事の取り組みに、家庭学習を入れ、学校全体として取り組んだ チャレンジ図書の達成者は、1学期末で45%、2学期末で86%、最終97%の児童が達成した。追加のチャレンジ図書加える学年も生まれた
<p>(3) 学力の定着(学力保障)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査の活用と補習の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の学力の確実な定着に努めるとともに、学力に課題のある児童に、WEBの学習教材を有効に活用し、学力保障の取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 学力に課題のある児童に対して、補習を行っている <p>[学力調査で課題が認められた児童]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果の出た6月以降に、各学年別に補習の取り組みを行った。5.6年生の対象児童については、夏の短期補習を行い、学力保障に努めた 3学期には、水曜日を中心に特別補習を行った。今後は、継続的な取り組みと、組織が必要だとの声が聞かれた

〔2〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進【**豊かな人間性の育成**】

今年度の重点目標	具体的取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究と道徳カリキュラムの編成 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業研究(実践研修)を行い、道徳の授業力を高める 各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに評価研究を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業研究(実践研修)と研修を行い、道徳の授業力を高める 各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に3年生で「生活、授業の中で、道徳性を価値づける」というテーマで、授業研究(実践研修)を行い、学びを深めた 特別の教科道徳の実施にあたり、各学年のカリキュラムや道徳の全体計画を作成。その資料に基づき、授業を実施した
<p>(2) 児童セーフティネットの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が生き生きと学校生活を送るための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生活アンケートを実施する 不登校や学習障がいなど、課題を抱える児童のケースカンファレンスやいじめに関する研修会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施し、課題を抱える児童のケースカンファレンスを定期的に行ったり、年1回以上の研修会を開催したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期と2学期に児童生活アンケートを実施。スクールカウンセラーを交えたケースカンファレンスを随時行った 6月にいじめ、10月に不登校・児童理解に関する児童セーフティネット研修会を行い、児童理解を深めた

〔3〕「世界市民」を育成するための教育の充実【**世界市民の育成**】

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 英語授業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝のET(イングリッシュタイム)を担当のもとで実施するとともに、英語カリキュラムを充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で担任の指導の下、朝のET(イングリッシュタイム)で、教材(Switch)Grade1を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 再来年度の英語の教科化に向けて、毎週火曜日に定例の英語推進委員

<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマの全学年ET(イングリッシュタイム)の実施と英語授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・5.6年生の英語の展開授業を実施する 		<ul style="list-style-type: none"> 会を開催し、計画的にET(イングリッシュタイム)を実施した ・本年度から、ET(イングリッシュタイム)の時間を2倍に拡充し、教材(Switch)を使用しながら、英語の短時間学習をより充実させた
<ul style="list-style-type: none"> (2) 国際交流活動の推進 ・体験交流、作品交流の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流行事を通して、世界市民を育成する国際教育を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルキャンプ(5年生)、OEV(5・6年生)、北京第一実験小学校との交流絵画展を行っている ※OEV (OSAKA ENGLISH VILLAGE) 	<ul style="list-style-type: none"> ・創価大学で学ぶ留学生40名を迎え、9月7日にグローバルキャンプを開催し、5年生と交流を深めた ・5・6年生の英語研修を12月5日、OEVで実施。3年目となる本年は、会場を貸し切り、オリジナルのプログラムで行った ・4月24日、中国・北京第一実験小学校との第25回「交流絵画展」のオープニング式を行い、2週間にわたって絵画展を開催した ・5月11日、イギリスのカンタベリー・クライスト・チャーチ大学の一行を、6月11日には、パライバ連邦大学総長一行を迎え、歓迎会を行い、交流を深めた
<ul style="list-style-type: none"> (3) 生活科と総合的学習(創価タイム)の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた総合的な学習の全体計画を作成し、生活科と総合的な学習の時間をつないでいく 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに課題を設定する時間を設けて、大単元学習として取り組んでいる ・「ともに生きることを考える世界市民の育成」を目標に、探究のプロセスで学習している 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・創価タイム部会を開催し、カリキュラムマネジメントの視点から、校外学習・栽培活動等の見直しを検討した。その後、学年会や企画会で、さらに検討を重ね、来年度に引き継ぐ単元を研究した ・6年生は、ユニセフ協会の出前授業を受けたり、募金活動を行ったりする中で、“ともに生きる”ことを学び、深めた

〔4〕時代に即した教育の推進【情報教育・小中連携の推進】

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) メディア教育を推進 ・ICT機器(パソコン・iPad)の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を学習に使用したり、情報の時間で情報モラルについて学習したりしている ・プログラミング教育について、授業を行ったり、研修をしたりして理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートや習熟用のアプリで学習に取り組み、情報モラルについて学習している ・プログラミング教育について研究授業を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年(4・5・6年生)の教室に、1人1台の端末機を整え、ロイロノートや習熟用のアプリで学習に取り組んだ。ロイロノートの教員研修を12月27日に実施した ・小学校段階からのプログラミング教育の必修化を前に、ビジュアルプログラミングの実践を6月に研究授業として行い、研修で学びを深めた ・3学期には、6年生でマイクロビットを用いた理科の学習を試みた
<ul style="list-style-type: none"> (2) 小中連携教育の推進 ・小中ブリッジプログラムの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携年間計画にしたがって、ブリッジプログラムを行う ・中学へのスムーズな移行ができるように小・中の連携を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って、学園ステイ、中学生生活ガイダンス、校長面談を行っている ・3学期に連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学ブリッジプログラムの一環として学園ステイを、6月1日・2日に実施し、関西創価中学校(交野市)進学への意欲を高めた。年間計画に沿って、1・2学期には、校長とのグループ会食懇談、3学期には個別面談を行った ・小中連携年間計画を策定し、学年連絡会議・運営会議・推薦会議などで連携をとって進めた。また、中学へ引き継ぎのための個別連絡シートの作成を作成し、連絡会議を行った

〔5〕規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立【児童生活の充実】

今年度の重点目標	具体取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
----------	-------------	------	------

<p>(1) 積極的な生徒指導 ・礼儀礼節と規律の指導</p>	<p>・発達段階を踏まえた「挨拶」「マナー」「ルール」の指導を行う</p>	<p>・通学時には、進んで挨拶し、「思いやりノートーク」を行っている</p>	<p>・「思いやりノートーク運動」を実施しての3年目にあたる本年、落ち着いて通学路を歩けるようになってきた。苦情の大半は、低学年に集中しており、マナーとルールの定着を進めていきたい ・グラウンドでの事故を防ぐため、ルールを再度見直し、徹底した</p>
<p>(2) 健康づくりの推進 ・積極的な食育と体力づくりの推進</p>	<p>・食育の全体計画や、体力向上計画に沿って、教科と連動する授業を行ったり、各種の体育的な大会を実施したりする</p>	<p>・月一回の食育委員会の開催し食育の充実を図っている ・学期ごとに、各種の体力向上の取り組みを行っている</p>	<p>・食育委員会を毎月開催。各科目と連動した授業も増加した。給食トークや給食クイズとともに、児童の考えた献立なども給食に生かした ・体育推進委員を中心に各種の大会を開催し、体力の向上に努めた ・インフルエンザの対策を行うとともに、学級閉鎖基準と早期下校、保護者への連絡方法を明文化した</p>
<p>(3) 安心・安全の指導の強化 ・防火、防犯、防災等の教育の強化</p>	<p>・年間計画に基づいて、安心・安全のための指導・訓練を実施し、意識を高める ・なかよし会(地域別児童班)の意義の再確認し、地域別指導を行う</p>	<p>・年6回、各種訓練(避難・防災・防犯)や安全教室を行っている ・早期下校訓練を災害を想定した新しい形で実施している</p>	<p>・年間計画に基づき、各種の訓練を実施。2月には、警察を招いて、低高別に防犯教室を開催した ・大阪北部地震が発生。当日の6月18日には、引き取り下校を行った。また、非常時の緊急参集事前調査を行ったりして体制を整えた ・7月に、校外児童会(なかよし会)による早期下校を台風接近を想定した新しい形で実施した</p>

〔6〕 教員の資質・能力の向上のための研修の充実 【各種研修の充実】

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) キャリア研修の実施 ・年代別のキャリア研修を実施</p>	<p>・初任者研修会・青年研修会を年間計画に則って行う</p>	<p>・年6回の初任者研修会・青年研修会を行っている</p>	<p>・年間計画に沿って、年8回の初任者研修会と青年研修会を開催した ・講義型とワークショップ型など、学びの形を変え、受講者とともに担当する講師も、教師力の向上を図ることができた</p>
<p>(2) 教育力向上の研修の充実 ・教育力を高める研修を実施</p>	<p>・校外研修へ積極的に参加したり、講師を招いての研修を行ったりする</p>	<p>・講師を招いての研修を年2回以上行っている</p>	<p>・講師を招いて、授業実践研修を年3回実施した。教案の作成から指導を受け、授業力を高めた ・弁護士を招き、学校で起こる諸問題や初期対応について学んだ</p>

〔7〕 児童募集・家庭との連携の充実 【地域・家庭との連携】

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 募集行事・広報活動の充実 ・広報ツール・オープンキャンパスなど広報行事の充実</p>	<p>・広報ツールの充実と、魅力的なオープンキャンパスなどの募集行事を行う</p>	<p>・ホームページやSNSなどを効果的に活用し、体験授業・体験給食などを実施し、広報活動の充実を図っている</p>	<p>・学校見学会や説明会などで、体験授業・体験給食などを実施した。さらに、教育講座や音楽クラブの催し物などを加え、広報活動の充実を図った ・ビデオ「はじめてのつうがく」を制作し、遠距離通学者への不安を払拭することができた</p>
<p>(2) 家庭への情報発信 ・メルポコを使用した家庭連携の迅速化や保護者ポータルサイトの設置と活用</p>	<p>・定期的にメルポコを使用して、保護者に学校の月行事予定等を発信する ・保護者ポータルサイトを設置し、保護者に有効な情報を発信する</p>	<p>・月ごとにメルポコで行事予定や学校情報を発信している [月2回以上] ・保護者ポータルサイトをWEB上に設置している</p>	<p>・本年度から保護者ポータルサイトを運用し始めた。各種の連絡や学習コーナーなどを開設して、PDFで確認できるようにした。また、月ごとのメルポコ発信に加え、インフルエンザや台風・地震対応など、学校情報を積極的に発信した</p>

7. 自己評価アンケートの結果と分析

自己評価の結果と分析	評価委員等からの意見
<p>〔1〕 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年に引き続き、家庭での学習習慣を身につけさせることを目的に「家庭学習の手引き」に記された学年別の自宅学習時間達成を目標に取り組んだ。7割の目標に対して7割以上の児童が目標の学習時間を達成した。保護者アンケートでは、77%が達成という数値がでた。上位層と下位層との格差があり、今後も継続的に取り組む必要性を感じる ○学力が定着できているかどうかを図ることについては、標準学力調査を学力スケールとした。高学年では、国語・算数ともに、校内正答率においてどの学年も目標値を超える結果が出たものの、各教科の領域においては課題が見られた学年があった。漢字の定着を目指した漢字検定は、受検した級にほぼ全員が合格するなど成果を上げた ○学力調査の結果が出た6月以降に、各学年別に継続的に補習の取り組みを行った。5・6年生の学力に課題がある児童については、昨年に引き続き、夏の短期補習を行って学力保障に努めた。学力保障の取り組みと校内体制については、管理職や校務部長の代表で協議をし、来年度は新しい支援体制のもと、取り組みを開始することとした 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日学校に行くのが楽しいと多くの児童たちが語っている。多くの教員が丁寧に関わり、安心して学校に通わせることができているように思う ○漢字検定や英検Jr.などの取り組みが、学びへのよい刺激となっている。また、全国レベルの結果を出していることも児童たちの自信や誇りにもなっているように感じる。さらに力を伸ばして行ってほしい
<p>〔2〕 豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校現場には、不登校や課題を抱える児童が増加し、人権学習を含めた教育の多様性がより一層求められている。本校でも、児童生活アンケートを行ったり、いじめ・不登校に関する研修会を行ったりして、学びを深める機会を設けている ○スクールカウンセラーを交えたケースカンファレンスを軸に、児童や保護者に対するきめ細かな対応を心がけてきた。今後はさらに、一人一人に焦点を当てた取り組みを進めていきたい ○特別の教科道徳がはじまり、道徳の教科書を使って授業を行い、その評価を行った。実践の積み重ねを大切にしていき、児童の道徳性を伸ばしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会や保護者講座等で、子どもとの関わり方や学習の取り組み方などを的確に発信していることが子育てに大変役立っている ○創価学園50年の歴史を土台としながら、自主の心・自ら学び行動していく児童の育成に期待したい
<p>〔3〕 世界市民の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本年度からET(イングリッシュタイム)の時間を2倍に拡充し、英語の短時間学習をより充実させた。カリキュラムのベースとなる教材を「Switch」とし、時数にもカウントするようにした。今後は評価の方法等も含め、研究を進めていきたい ○創価大学で学ぶ留学生との交流である「グローバルキャンプ」は、回を重ねるごとに充実してきている。また「大阪イングリッシュビレッジ(OEV)」での英語研修は、施設を貸し切り、本校のレベルを意識した体験学習を行っている。今後も海外との交流の機会を増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学に子弟を通わせる保護者から、授業の形態が大きく変わっているとの話を伺った。特にテーマに即して、自分の考えを“伝える力”が重要視されている。小学校段階からの取り組みも期待したい
<p>〔4〕 情報教育・小中連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年に引き続き、校外からの外部講師を迎えて、4・5・6年生の児童や高学年の保護者を対象にしたケータイ・スマホ教室を行った。プログラミング教育については、年3回ある研究授業に組み込んで6月に開催、併せて研修会を行った。また、12月には、ロイロノートの研修会を、講師を招いて開催し、学びを深める機会を増やした。さらに研究を進めていく必要がある ○小中ブリッジプログラムは、より細かな計画と連携を密にするように務めた。学年連絡会議を軸に、引き継ぎシートを作成し、児童がスムーズに中学生活に馴染めるようにした。また、中学のカウンセラーにも来校してもらい、学校や学年の様子を見てもらった。より一層の連携を強めていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング教育については、社会でも話題になっている。小学校段階からのプログラミング教育の必修化を前に、独自で実践や研修を行い、学びを深めることができた ○小中連絡会議を行うなど、接続教育に力を入れていることは大変重要なことだと感じる
<p>〔5〕 児童生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電車内や通学路での苦情電話は、年間で十数件程になった。数としては、少なくなったものの、ルールが守れている児童とそうでない児童の二極化が進んでいる。通学路は、教師や家庭の目の届かない場所なので、児童の自覚を高めていきたい。そして高学年が低学年の世話をするという意識を向上させたい ○低学年の下校班については、1年生のみとし、成長に併せて解消していくことになった。大阪北部地震をはじめとする様々な災害を考えると、安全・安心を確保するという観点から、今後、朝の時間帯の指導を再度徹底していくということになった ○児童の生活指導にあたっては、学校での生活、家庭での生活を含めた、本校児童の生活ランドデザインを意識していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○一列登校、ノートク、ノーランの取り組みを学校として実践している。こうした取り組みは今後も大切にして行ってほしい。身だしなみを整えていてもらいたい ○世間でもランドセルの軽量化が話題になっている。荷物の軽量化と持ち帰り荷物についても検討して行ってほしい
<p>〔6〕 各種研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○充実したキャリア別の研修を行うことが出来た。青年研修や初任者研修において、講師を担当するベテラン教師にとっても、受講する新任・中堅の教師にとっても有益なものとなった ○学校教育において、不登校やいじめなど、直面する課題は年々増えてきている。そうした問題にチームで取り組むために、いじめや不登校に関する研修を行った ○校外からの外部講師を招いて、授業実践研修を3回行い、授業力を高めた。校内研修と校外研修を効果的に使いながら教師力を高めていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールポリシーにある「学校に行きたくなくなる」教育を日々の研修を通して、実践されていることに感謝したい ○小学校ならではの、細やかな取り組みである。教員の学びの結晶であると実感する。さらに進取の気性で学びを深めて行ってほしいと

<p>○薬物乱用防止教室については、従来は教師が行っていたが、本年度は、大阪府警察・少年課を招いて、6年生で実施することができた。5年時の「万引き防止教室」と併せて、健全な成長を促すために、生徒指導上必要な内容を実施することができた</p>	<p>期待する</p>
<p>〔7〕地域・家庭との連携 ○昨年、少子化の中で、児童募集を効果的に進めていくための集中討議を行った。そのアイデアを具体的な形で現し、募集行事を行った ○保護者講座の開催場所を変更し、低学年と高学年に分けて開催した。学年を絞ることで、発達段階を意識した講座を行うことができた ○保護者ポータルサイトを開設し、配布プリントを確認することができ、学習コーナーなどによって、家庭学習の補助をすることができた</p>	<p>○昨年は、台風や地震など災害の多い年であった。携帯電話の持ち込みについて、世間でも話題になっている。御校の場合は、遠距離の通学者も多いので、さらにきめ細かな対応をお願いしたい</p>

8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・計画・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が掲げている学校教育目標は、小・中・高の一貫性を踏まえ、可能性の育成・心の育成・世界市民の育成と、ポイントを三つに集約し、まとめたものである。この目標は、創価学園のミッション・関西創価学園育成ポリシーを視野に入れ、児童の健全な成長にとって適切かつ重要なものと考えている。今後も発展的に継続する目標として掲げていきたい。とともに、目標に示した各項目については、さらにその成果を上げるための計画および具体的な方法や評価方法を検討していきたい。

2. 今後の改善方策

◎ 学校の重点目標とその実施計画

(1) 確かな学力の育成ための「各種取り組み」の充実

[授業力向上、三者協力(児童・教師・保護者)による学力の向上、学力の定着(学力保障)の強化]

授業力の向上を目指すため、研修会やセミナーへの積極的な参加や、課題を明確にした研究授業・公開授業を行う。

教員間の情報の共有や学び合いなどを通して、授業力を高め、質の高い授業を目指す。

若手・中堅を中心に講師を招いて、授業の実践研修を行う。

また、家庭への発信力を高め、児童・教師・保護者の三者の協力による学力向上を図る。

さらに、学カスケール(学力調査)をもとに、学ぶ喜び、変わっていく実感を持たせる学力保障の取り組みを具体的に挙げる。

(2) 豊かな人間性を育むための「心の教育」の充実

[読書教育の推進、特別の教科道徳の実践、児童セーフティネットの充実]

心の教育を充実させる一つとして、読書教育の推進を掲げていきたい。

国語部会と連携をしながら、読書習慣の定着を目指す、“ノーベルタイム”や“ワンブック運動”、電車内での読書等を含む“ノーベルトレイン運動”を呼びかけ、さらなる推進をする。

また、チームで課題をもつ児童に取り組む、チーム支援の在り方などを研修で学び合い、きめ細かなケースカンファレンスを行うなど、児童セーフティネットを充実させる。特別の教科道徳のカリキュラムの実践や、生活アンケートなどを通して、一人一人の児童の状況をより細かく把握するなかで、悩みや不安を持つ児童への適切な指導を行い、自己肯定感を高め、生き生きと学校生活を送れるようにする。

(3) 「世界市民」を育成するための教育の充実

[英語モジュールの充実・総合的な学習の研究推進]

毎朝行っている英語の短時間学習(モジュール学習)である「イングリッシュタイム」の時間を倍増し、英語のコマ数を1増とした。また、毎週の英語推進部会を中心に、内容をより一層充実させるとともに、現在導入している教材を各担任の指導により、進めていきたい。短時間ではあるが、毎日、英語に触れることにより、効果があがっていくと期待している。また、2020年度から導入される高学年(5・6年生)の英語の教科化の教科書選定をはじめとする準備もしっかりと行っていきたい。

上記のような取り組みに加え、各教科や創価タイム(総合的な学習の時間)・特別活動なども「世界市民」育成という観点を視座に学習活動を充実させていく。

特に探究型の学習形態を視野に入れた、創価タイム(総合的な学習の時間)の研究を進めていきたい。併せて行事の精選や、校外学習についても、内容や見学地の見直し、活動場所の精査も行っていきたい。

3. 今後の学校運営のあり方

いよいよ2020年度から、新学習指導要領の全面実施となる。創立精神や教育方針(創価学園ミッション・関西創価学園育成ポリシー・本校のスクールポリシー)を根幹に据えつつ、社会が抱えている課題や児童・保護者のニーズに応える教育活動を着実に展開してまいりたい。

そのためには、保護者や学校関係者評価委員会・第三者評価委員会の意見を真摯に受け止め、改革・改善に努めていく。

そして、教育内容の充実を一層図るとともに、教育目標が達成できるよう教育計画を立案し、学校組織を整えていきたい。

さらに、人材育成プログラムの充実により、教員の資質向上に努め、教員間の連携を強化し、チーム関西小として、学校全体の教育力向上に一層努めたいと考えている。

以上